インターンシップ科目の現状と課題

川端由美子
お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

The Present State and Issues of the Internship Program

Yumiko KAWABATA
Ochanomizu University; Student and Career Support Center

The purpose of this paper is to investigate the present state and issues of the internship program at Ochanomizu University by assessing the results of student surveys.
The main findings are below:
1) detailed explanations about internships are needed before holding classes.
2) prior student training is needed before attending an internship.
3) the purpose of student internship programs is practical training, not credit earning.
4) the timing of attending internships impacts anxiety levels of students.
5) class non-attendance due to internships should be compensated by offering supplementary classes.

keywords : internship, work experience, career education, vocational education

問題と目的

本研究は、お茶の水女子大学のインターンシップ科目における現状と課題を、学生のインターンシップ参加目的やインターンシップに対する不安をアンケート調査の結果から探ることを目的とする。

本科目は、ガイダンスから始まる構成になっており、2014 年度のガイダンス（2014 年 4 月 25 日実施）の参加学生数は 120 ～ 130 人程度であった。1 学年の在籍学生数が約 500 人であることを考えると、相当数の学生はインターンシップに対して関心を持っていることになる。しかし、最終的な単位認定者数はわずか 4 人であり、学生数が激減する要因は不明である [*1]。

インターンシップは、勤労観・職業観の育成や学修意欲の喚起を促す重要な意義を有するとし、大学においては積極的な実施が求められている。学生のインターンシップに対する関心が少なからずある状況において、学生の現状を把握し、ニーズに合った教育プログラムを構築することが必要だと考えた。

本稿の構成としては、まず科目の概要の説明から始め、実践報告をしたうえで、学生に実施したアンケート結果を示す。なお、インターンシップという用語は、以降、科目全体を指す場合に用いる。企業等における実習を、一般的に「インターンシップ」と呼ぶことがあるが、本稿では企業等における実習部分は「就業体験」と表記する。

科目の概要

本科目はお茶の水女子大学のキャリアデザインプログラム科目群のうちの 1 科目と位置付けられている。キャリアデザインプログラムは、教養教育や専門教育、課外活動などを含めた大学生活全体で養われる力（就業力）を開花させていくものであり、お茶の水女子大学が重視する心遣い・知性・しなやかさという思考・行動特性を核に、就業力の基礎となる「コンピテンシー」を開発することをねらいとしている。コンピテンシーとは、問題を発見し、知識や技能を状況に応じて組み合わせ、成果をあげる包括的能力とその行動

Copyright 2016. Ochanomizu University. All right reserved.

特性のことであり、本科目はその実践科目とされている。

本科目の対象学生は、全学部全学科であり、学年は問わない。科目コードは異なるが、大学院生も含まれる。対象となる就業体験は、原則として大学の夏期休業期間内におこなわれるもので、1社につき通算5日以上もしくは30時間以上のものであり、卒業・修了要件に含まれない1単位が付与される。有償および海外インターンシップ[*2]は対象外である。

本科目の全体像はFigure1の通り、5つのプロセスからなる。履修希望の学生は、まずガイダンスに参加し、次に事務説明会に参加する。続いて、事前講習に出席し、企業等において就業体験を経験する。最後に学内の報告会に出席する。各プロセスの詳細については、次章にて説明する。

単位認定の要件は、第一にこの5つのプロセス全てに参加していること（指定講義への出席および就業体験への参加）、第二に各種書類（日報や報告書等）の提出、第三に就業体験の参加前後にMy Portfolioのコンピテンシー分析[*3]を実施することである。

実践報告

ガイダンス

2014年度までは履修ガイダンスとして、履修対象になる就業体験や履修要件などの説明をおこなっていた。しかし、最終的な単位認定者数が少ないことから、2015年度はガイダンスの内容を見直すことにした。ガイダンスへの参加学生数は多いことから、インターンシップや就業体験とは何か、全体像を伝えることを目的とした。また、履修希望者向けの話だけではなく、履修を希望していない学生に対しても留意点等を伝える場とした。

履修希望の有無に関わらずに参加を呼びかけたところ、140人が参加した。また、ガイダンスに参加できないという学生からの申し出が相次いだため、補講を2回実施したところ、計29人が参加した。4月当初のガイダンス時と合わせると169人がガイダンスに参加したことになる。

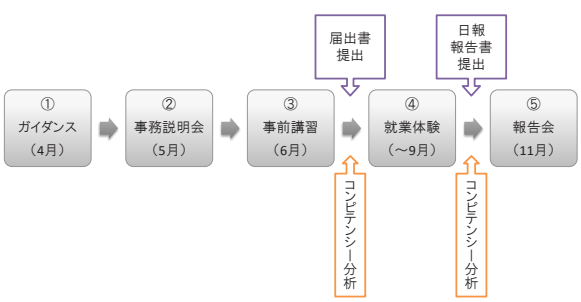

Figure1　科目の全体像

本ガイダンスはインターンシップ科目の最初のプロセスであり、他のプロセスと比較すると参加学生数が一番多い。学生は何を求めてガイダンスに参加をするのか、学生のガイダンス参加目的を把握するため、アンケート調査を実施した。アンケート項目は、1. 履修希望、2. ガイダンス参加の目的、3. 希望の就業体験先の3項目である。

事務説明会

本科目は、学生自身が就業体験先を見つけることを到達目標の1つとしている。そのため、ガイダンスの時点において、学生は履修登録の判断をつけられないことが本科目の難点である。就業体験への参加が確定していない段階で履修登録をすると、就業体験に参加できなかった場合に履修取消が発生する。2014年度は就業体験への参加希望者には必ず学期始めに履修登録をさせたため、100人以上の履修取消に至った。その反省を踏まえ、2015年度は「インターンシップ届出書」（以降、「届出書」と記載）を新設し、履修登録の項目を設け、就業体験が確定した段階で届出書の提出を課した。

事務説明会は、この届出書に関する説明を中心におこなった。届出書は、履修に関わらず、就業体験参加時には提出を求めることとした。就業体験は学外での活動になるため、予期せぬ事故等が発生するリスクの観点から、大学においては事前に把握していることが望まれる。加えて、大学とは無関係に企業等が実施する就業体験に学生が個人的に参加する場合であっても、「大学等の教育の一環として位置付けられ得るものであることから、大学が積極的に関与することが必要」（文部科学省ら2014, p.2）とされており、事前把握が求められている。

事務説明会では届出書を配布し、説明をして周知すると共に、就業体験情報を掲載している学内者向けサイトmoodleにおいても、届出書をダウンロードできるようにした。なお、届出書は単に就業体験先のみを報告するものとはせず、就業体験参加の目的や具体的な実習内容、申込の経路を記載させる項目を設けて、就業体験に参加する学生の状況を把握できるようにした。また、事故や損害賠償の事由が発生した場合には、日報の提出を求めることを学生には伝え、日報の作成を義務付けた[*4]。

なお、事務説明会は学生・キャリア支援課の方に担当いただいた。就業体験に係る事務に関することであり、届出書の提出先が学生・キャリア支援課だからである。

事務説明会への参加学生数は 137 人だが、事務説明会に参加できなかった学生には、学生・キャリア支援課の窓口にて個別対応をしたと聞いている。なお、本科目の単位認定者は、個別対応ではなく、事務説明会に全員参加していたことを申し添えておく。

事務説明会においても、参加した学生にアンケート調査を実施した。アンケート項目は、1. 履修希望、2. 就業体験参加の目的、3. 就業体験に関する不安、4. 希望の就業体験先の 4 項目である。

事前講習

2014 年度までは、外部講師によるビジネスマナー講習を実施していたが、2015 年度は事前講習とし、二部構成にした。前半では、自己分析についての説明をし、後半では、外部講師にビジネスマナーを担当いただいた。

ガイダンス同様、事前講習も履修希望の有無に関わらず、広く参加を呼びかけたところ、113 人が参加した。事前講習に参加できないという複数学生からの申し出を事前に受けていたため、事前講習も補講対応をした。補講には 8 人が参加し、補講を含めると計 121 人の受講となった。

事前講習においても、参加した学生にアンケート調査を実施した。事務説明会からの学生の意向変化を見るため、同じ調査票を用いた。

就業体験

届出書は 37 人の学生が提出した。事前講習の参加学生数を基準とすると、届出書の提出割合は約 3 割である。ただし、事前学習に参加した学生全員が就業体験に応募したとは限らず、就業体験を希望しても、選考に漏れた学生もいれば、日程が合わずに断念した学生もおり、理由は一概ではない。また、就業体験への参加が確定した学生全員が届出書を提出しているとも限らず、実際に就業体験に行った学生の割合はこれ以上に高いかもしれない。

届出書を提出した 37 人のうち、履修登録を希望したのは 19 人であった。約半数が履修を希望するという結果であった。単位認定の要件の 1 つである各種書類（日報および報告書）の提出があったのは 11 人であった。

報告会

本科目で対象としている就業体験は、原則として大学の夏期休業期間である 9 月末までにおこなわれるものにつき、報告会は 10 月以降での実施となる。単位認定の要件である各種書類（日報や報告書等）の提出とその確認をする期間を考慮し、11 月の実施が適切と判断した。

報告会の日程は、事前講習の段階で通知した。本科目は、定期の日時で実施する講義ではないため、当該日時に別講義を履修している可能性がある。しかし、全ての学生の事情を受け入れることは難しい。早い段階で報告会の日程を学生に通知することとし、参加できない場合は単位認定の要件を満たさないため、履修取消になることをあらかじめ周知しておいた。

ガイダンスおよび事前講習において補講対応をしたことから、報告会も 2 回実施する予定で学生に日程を通知した。日報や報告書等の提出時に、2 日程のどちらを希望するか聞いたところ、1 日程に集約されたため、実際には 1 回の実施となった。対象学生は 11 人だが、当日急に参加ができなくなった学生がおり、10 人での実施となった。したがって、2015 年度の最終的な単位認定者数は、海外インターンシップ参加者 1 人 [*2] を加えた、計 11 人である。

学生アンケート調査の結果

調査の概要

学生の状況を把握するため、1. ガイダンス（4 月、ただし補講は 5 月）、2. 事務説明会（5 月）、3. 事前講習（6 月）、4. 届出書の提出（9 月まで）の 4 時点において、アンケート調査を実施した。それぞれの参加（提出）学生数および回答数は Table1 の通りである。

ガイダンス参加の目的

4 月に実施したガイダンスにおいて、ガイダンス参加の目的を聞いた結果が Figure2 である。「履修を希望している」あるいは「履修で悩んでいる」という、履修に関しての回答は 2 割程度にとどまる。むしろ、「インターンシップについて知りたい」と回答した学生が 9 割近くを占める。履修希望の有無に関わらずに広く参加を呼びかけたことも考慮しなければならないが、履修に関してよりも、まずは就業体験（インターンシップ）とは何かということを知りたいということ

Table1　参加学生数および回答数

時期	実施講義等	参加学生数	回答数	内訳（回答学生の学年）					
				1年	2年	3年	4年	M1	M2
4月	ガイダンス	169	165	11 (6.7%)	34 (20.6%)	109 (66.1%)	1 (0.6%)	8 (4.8%)	2 (1.2%)
5月	事務説明会	137	110	1 (0.9%)	13 (11.8%)	86 (78.2%)	1 (0.9%)	9 (8.2%)	0 (0.0%)
6月	事前講習	121	102	2 (2.0%)	10 (9.8%)	82 (80.4%)	3 (2.9%)	5 (4.9%)	0 (0.0%)
9月まで	届出書提出	提出者数 37	実習先数 45	1 (2.7%)	2 (5.4%)	27 (73.0%)	0 (0.0%)	7 (18.9%)	0 (0.0%)

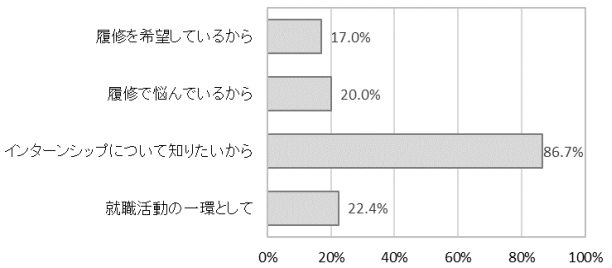

Figure2　ガイダンス参加の目的（複数回答）

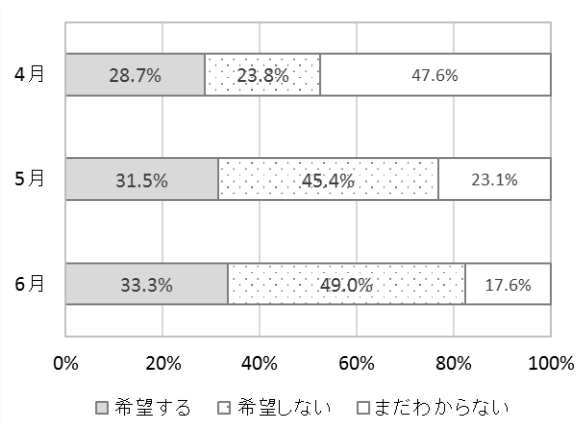

Figure3　履修希望

がうかがえる。

履修希望

履修希望の推移は Figure3 の通りである。4 月のガイダンスでは、履修に関して「まだわからない」と回答する学生が半数近くを占める。5 月の事務説明会、6 月の事前講習と、月が経過するほど、履修を「希望する」「希望しない」と回答する割合が共に高まり、「まだわからない」と回答する割合は低くなる。特に、事前講習においては、履修を希望しない割合が 5 割近くになる。履修を希望しないものの、事前講習に参加していることから、学生の事前講習に対するニーズがうかがえる。

就業体験参加の目的

就業体験が決定していない時点における、就業体験参加の目的は Figure4 の通りである。「希望する仕事や企業の実務を体験したい」が 8 割を超え、次いで「働くことがどういうものか体験したい」が 7 割を超える。一方、「単位を取得するため」は 1 割を切る。

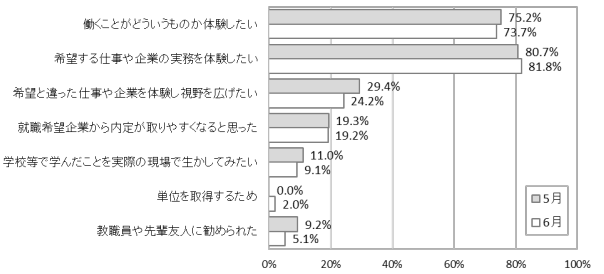

Figure4　就業体験決定前：就業体験参加の目的（複数回答）

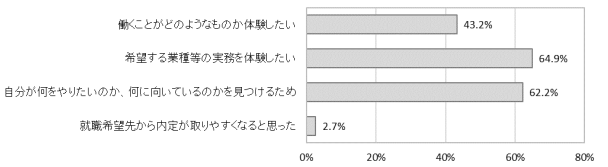

Figure5　就業体験決定後：就業体験参加の目的（複数回答）

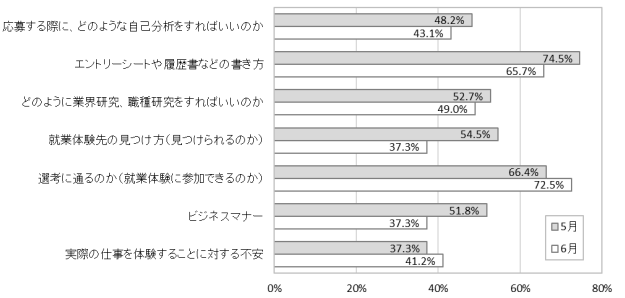

Figure6　就業体験参加に関する不安（複数回答）

就業体験が決定した時点（届出書の提出）における、就業体験参加の目的は Figure5 の通りである。「希望する業種等の実務を体験したい」が 6 割を超え、Figure 4 と質問項目は異なるものの、実務の体験を希望する割合が一番高い。また、「自分が何をやりたいのか、何に向いているのかを見つけるため」も 6 割を超える。

就業体験参加に関する不安

就業体験参加に関する不安は Figure6 の通りである。5 月の事務説明会では、「エントリーシートや履歴書などの書き方」に対する不安が一番高く、7 割を超える。6 月の事前講習では、「選考に通るのか（就業体験に参加できるのか）」という不安が一番高くなる。「就業体験先の見つけ方（見つけられるのか）」および「ビジネスマナー」に関しては、6 月になると 5 月よりも 15 ポイント前後低くなる。時期によって、学生が不安に感じる項目に変化がみられる。

まとめ

インターンシップ科目の実践および学生に対するアンケート調査からみえてきたことは、次の五つである。

第一に、就業体験（インターンシップ）の説明をする場が求められている。ガイダンスに参加した学生は170人近くおり、就業体験に対して関心を抱いている学生が相当数いることがわかる。ガイダンスの時点(4月）においては、「インターンシップについて知りたい」という要望が9割近くを占め、履修に関しては、「まだわからない」という回答が5割弱存在する。したがって、履修に関わらず、まずは就業体験（インターンシップ）とは何かという説明をする機会を設けることが必要である。

第二に、事前講習に対するニーズがある。履修を希望しないものの、事前講習に参加する学生が5割近くを占める。就業体験参加前に何らかの準備をしておきたいことがうかがえるため、事前に講義や支援行事等を実施することは有効と考える。

第三に、就業体験参加の目的は、就業体験の決定前後に関わらず、実務の体験を希望する割合が一番高い。一方、就業体験の決定前において、一番目的にならない項目は「単位を取得するため」であり、1割を切る。現に、就業体験先が決定し、届出書を提出した者の約半数は、履修を希望しなかった。先行研究においても同様の結果が示されており、川端（2015）は、インターンシップに対する学生の期待が一番低いのは単位取得であると報告している。教職員からすると、学生は単位がないと参加しないのではないかと思いがちだが、学生は単位で左右されるのではなく、働くことの体験に重きを置いていると言える。

第四に、時期により学生が抱える不安の内容に変化が生じる。5月の事務説明会では、「エントリーシートや履歴書などの書き方」に対する不安が一番高い。6月の事前講習では、「選考に通るのか（就業体験に参加できるのか)」という不安が一番高くなる。「就業体験先の見つけ方（見つけられるのか)」および「ビジネスマナー」に関しては、6月になると不安を感じる割合が低くなる。時期によって、学生が不安に感じる項目に変化がみられる。そのため、時期に応じた支援もしくは講義等の実施を検討する余地がある。

第五に、補講対応が必要である。ガイダンスおよび事前講習では、実施日時に参加できないという学生からの申し出が相次ぎ、補講を実施した。インターンシップ科目は、集中講義の形態に近く、定期の日時での開講ではない。加えて、近年の学生は、授業時間外での学修や課外活動の参加、留学への推進等により、予定が過密である。そのため、参加できないという学生からの申し出が発生する。補講への参加学生も一定数いることから、できる限り補講を実施することは有効であり、なるべく事前に学生に補講日程を提示することが必要だろう。

注

1) 2013年度および2014年度の担当教員は退職しており、2015年度の担当教員は2015年4月着任につき、インターンシップ科目における過去の経緯や状況を詳細に把握しておらず、要因が不明であった。
2) 海外インターンシップは対象外だが、グローバル教育センターが担当しているインターンシップ付きの短期留学に関しては、これまで本科目にて単位認定をしている経緯があり、2015年度も海外インターンシップ参加者1名が含まれている。
3) My Portfolioとは、キャリアデザインプログラムで提供している学内オンラインシステム（http://epo.ao.ocha.ac.jp/）である。就業体験への参加前にコンピテンシー分析をすることで、自身の行動特性を考えたうえで就業体験に参加できる。就業体験参加後の実施は、経験を振り返ることで、自身の行動特性がより明確になり、自己理解が進むと考え、2015年度より単位認定の要件に含めた。
4) 履修希望者には日報の提出を義務づけたが、履修希望者以外は提出不要とし、自己管理とした。

参考文献

川端由美子（2015）「大学初年次生に対するインターンシップの意識調査」『インターンシップ研究年報』18, 25-30.

文部科学省・厚生労働省・経済産業省（2014）「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」

2015年12月8日　受稿